

参照用

歴史調査ハンドブック

武蔵戦国歴史年表

梅沢太久夫  
編著

まつやま書房

## 例言

- 一、この年表は、享徳三年に起こった「享徳の大乱」からを戦国時代として捉えて編集したが、歴史の流れを理解出来るよう多少の事項ではあるが、享徳の大乱以前の南北朝動乱期からと天正十八年以降の出来事についても触れた。
  - 二、この年表は、筆者が長年戦国史研究に携わり、その中で埼玉県内の史料を紐解き、解釈を進めながらその理解を深める為に、折に触れ作成してきた年表である。従って当然の事ながらその範囲は埼玉県を中心としているが、流れを理解するために必要な周辺地域の関係史料も使用して作成してある。
  - 三、この年表作成に当たっては『新編埼玉県史』通史編2、資料編5・6・7・8・9、『東松山市史』資料編2、『埼玉大百科事典』5巻所収年表『淨蓮寺慶長八年過去帳』『妙本寺回向帳』『東光寺過去帳』『行伝寺過去帳』『本土寺過去帳』『戦国遺文』後北条氏編・武田氏編5・古河公方編『戦国史年表』後北条氏編『上越市史』別巻Ⅰ・Ⅱ、『武田氏年表』『上杉氏年表』等のほか国立公文書館デジタルアーカイブ資料等を参考に作成したが、その参考引用文献については巻末に掲げた。
  - 四、年代や地名の所在地については調査の上比定したが、下山治久編『戦国史年表』後北条氏編を参考にさせて貰った。なお、出典史料との年代観が異なる史料は、改めて年代比定を行って位置つけたものである。確定出来ない事項については○かとした。
  - 五、本表中では後北条氏あるいは小田原北条氏と呼び習わされる戦国大名北条氏については北条氏と呼称した。
- 四、「出典」欄の数字は、原則として『新編埼玉県史』の巻数(2は通史編、5は資料編、別は別編)を示し、掲載文書番号を示してある。市史2は『東松山市史』資料編2、番号は史料番号を示す。「戦国遺文」後北条氏編は戦北、武田氏編は戦武、古河公方編は戦古と略称し、そのほか小田原市史原始古代中世Ⅰは小Ⅰ、静岡県史資料編8は静、千葉県の歴史中世Ⅳは千Ⅳ、新潟県史資料編5は新上越市史別編Ⅰ・Ⅱは上別Ⅰ・ⅡⅠ、北区史料編中世Ⅰは北Ⅰ、『神奈川県史』資料編3下は神Ⅰ、群馬県史資料編7は群7Ⅰ、埼玉県史料叢書12は12Ⅰ、『鉢形領内に遺された戦国史料集』第一〜四集頁は鉢Ⅰ〜ⅣⅠ、『淨蓮寺慶長八年過去帳』は『淨蓮寺過去帳』等と略称で記入した。出典は『新編埼玉県史』資料編を主とし、余白がある項目には『戦国遺文』後北条氏編等の資料番号も入れた。





# 参照用

興国 5	12	9	足利基氏、関東管領となる。	『史料綜覧』巻六一三六一頁
貞和 5	12	8	野辺盛忠、榛沢郡野辺郷地頭職などを子泰盛に譲る。	『野辺盛忠讓状』51三六一
正平 4	11	9	足利直冬、小代隆平に小代郡吉田村(坂戸市)内の所領を安堵。	『足利直冬下文』51三六七
観応 1	12	17	高麗経澄、足利義詮の命を受けて鬼窪(白岡市)に挙兵。	『高麗経澄軍忠状』51三八〇
観心 2	12	19	羽弥貞合戦(さいたま市)。難波九郎三郎等討ちとり。 夜、阿須垣原で合戦(入間市)	
	12	20	府中へ進攻、小沢城焼き払い。	
文和 1	2	16	足利尊氏、安保信濃守泰規を秩父郡三沢郷、秩父郡内寺尾次郎跡・大河原郷關所分の地頭に任じしる。	『足利尊氏袖判下文』51三八六
正平 7		17	高麗経澄を高麗三郎兵衛跡地頭職に宛行つう。	『足利尊氏袖判下文』51三八七
		17	將軍足利尊氏、武州へ発向。	『鶴岡社務記録』71八六七頁
	②	18	新田義宗、義興ら武蔵上野を制し、鎌倉に入る。足利尊氏狩野川に敗走。	『太平記』71八一九〇二四頁
	②	20	人見原・金井原合戦。新田義興敗戦。	『高麗経澄軍忠状』51三九一
	②	28	宗長親王・新田義興等入間河原・小手指原・高麗原に戦い、尊氏を破る。	『足利尊氏御感御教書』51三九一
文和 2	7	28	足利基氏、鎌倉を出て関東に下向、入間川に陣。	『鎌倉九代後記』811八八頁
延文 1	9		足利基氏、入間川に陣。	『江戸房屋代同高泰着到状』5四一〇
延文 2	12	3	足利基氏、畠山国清の申請により、教念寺に男衾郡本田郷と小泉郷の地頭職を寄進と伝える。	『足利基氏寄進状』51四二一
正平 12		29	足利尊氏没。	『鎌倉大日記』国立公文書館デジタルアーカイブ版
延文 3	4	7	鎌倉公方足利基氏、別府幸美・高麗経澄・金子忠親等に上洛を命じ、將軍	『足利基氏軍勢催促状』51四二〇
延文 4	2	11	足利義詮の南方凶徒退治に従わせる。	『足利基氏軍勢催促状』51四三二
延文 5	④	9	足利基氏、金子忠親に再びの上洛參陣を命じる。	『足利基氏軍勢催促状』51四三二
貞治 1	2	21	將軍足利義詮、別府幸美の先月十一日紀州合戦における討死を賞す。	『足利基氏御感御教書』51四三三
(9・23)	6	6	足利基氏、岩松直國に白旗一揆等を連れ、伊豆神餘城(伊豆の国市)を築いた畠山国清等を討伐に出陣させる。	『足利基氏軍勢催促状』51四三七
正平 17	6	6	足利基氏、教念寺に男衾郡小泉郷地頭職および崎西郡鎌塚郷(鴻巣市)などの地を寄進と伝える。	『足利基氏寄進状』51四三八
貞治 2	2	6	足利基氏、豊嶋修理亮の伊豆立野城(伊豆市)における軍功を賞す。	『足利基氏御感御教書』51四四一

中世資料編

(永禄7)

11	27	11	24	10	27	10	19	10	15	9	20	9	15	9	7	9	6	8	6	8	4						
太田道誓	沼田城将河田長親に上杉輝虎からの黄金百両の札を述べ、	足利義氏、上総佐貫城の御座所から鎌倉に移座。	三春城主田村頭広、太田三楽齋の宇都宮移任を慰める。	北条氏照、高麗郡内の長田・分田金の名主百姓に他所へ欠落した百姓がおり、至急検査し、所在の確認を命じる。今後、このような話を聞いたら名主百姓の首を刎ねるといふ。	太田氏資、井草郷を十年荒野とし、百姓・脇百姓共に還住しての開発を命じる。	北条家、入間川宿に当年より三カ年諸役免除するが、陣夫役は務める事といふ。	武田信玄安中城攻略、北条氏康・氏政父子は四日に石戸・河越着陣後、岩付近くに在陣して越年。	太田氏資、内山弥右衛門尉に足立郡柴之郷沼尻十九貫文、柳崎原分一貫五百文宛行。	館林城主長尾景長、河田備前守長親に北条氏康が関宿城を攻撃したが多数を討ち取られ退陣し、行田市清水張陣。景長は備えの為、南部の川辺を固めている事を伝える。	上杉輝虎、川中島出陣。佐竹義昭に後詰めとして上武境出陣を要請。	小田城主小田氏治、松山城任城。武田信玄西上野出陣。今川は七月末に小田原に着陣、氏康は七月二十一日には(昭島市)大神まで出陣した。洪水で(多摩)川を越えられ無いと曰川義親力に伝える。	板東の事では、古河様(義氏)が成敗された上、凶らずも管領職を受けざるを得なかった事。北条の数々の不忠不義の事、小田城攻めなどの事。岩付城が奪取された事等。北条は討つべきと思っている事。和睦せよと言われた事への不信と不満を幕府の重臣太館晴光に述べる。	中佐久から碓井峠を通廻するといふ。	北条氏邦、猪俣左衛門尉・用十新六郎・畠澤右馬助・逸見左馬亮らに八月十日迄に江戸城着城を命ず。(用十新六郎がいるのでこの年カ)	上杉輝虎、将軍家からの和睦せよとの御内書を請け取り恐縮していること。板東の事では、古河様(義氏)が成敗された上、凶らずも管領職を受けざるを得なかった事。北条の数々の不忠不義の事、小田城攻めなどの事。岩付城が奪取された事等。北条は討つべきと思っている事。和睦せよと言われた事への不信と不満を幕府の重臣太館晴光に述べる。	「北条氏邦書状」6―170七、 戦北―三九八八、鉢三―62	「上杉輝虎書状」12―二七八	「小田氏治書状」6―四一〇	「長尾景長書状」12―二八〇	「太田氏資判物写」6―四二一 戦北八六四	「那須資矩書状」6―四二三	「北条家朱印状」6―四四四、戦北六五五	「太田氏資朱印状写」6―四一五 戦北八七一	「北条氏照朱印状」6―四四六、戦北八七三	「田村月斎書状」6―四一七	「足利義氏感状写」戦古八八三	「太田道誓書状」6―四一九





# 参照用

一六二五	慶長 20	4 12 19	18 1	【大阪夏の陣】 藤田信吉、榊原康勝の軍監として従軍、負け戦の責により病を理由に隠居し信濃に蟄居。	『新編埼玉県史』別編4―一六八頁 『新編埼玉県史』別編4―一六八頁 『藩翰譜』藤田
一六二六	元和 2	4 17	13	徳川家康、駿府城にて没。	『徳川実紀』第一編 『管窺武鑑』
一六二七	元和 3	2 12 14 18	13	藤田信吉木曾義高并宿にて五十八歳に病没。嗣子が無い為除封。西方藩薩藩。成田泰親没。嫡子重長既に没（慶長八年）、一男泰之が家督を継ぐ。藤田大学、出橋左衛門尉に書状を出し、吉田善兵衛親子等の武蔵猪俣帰国について木曾福島關所通行の便を依頼す。	『行田市史』資料編古代中世「断家譜」 『藤田大学書状写』『吉田家文書』鉢1―85
一六二八	元和 4	3 7	この頃	本田伊豆守寄騎吉田善兵衛、越前北ノ庄結城秀康之重臣本多伊豆守富正に仕えていたが、暇を貰い、妻と等七人を連れ武蔵猪俣に帰る。	『山田弥五左衛門書状』『吉田家文書』鉢1―86～88
一六三三	元和 8	10・18	この日、元和九年十月十八日榊原政景没す。	藤田大学邦綱は木部兵右衛門尉に西木部・真仁田分・長久院分・天太面（天白免力）共四十八貫八百文の所領を親の因幡守に遺わしたもので、大學としても兵右衛門尉が所有する事を確認すると伝える。	『藤田邦綱書状』12―付一四三、鉢3―94
一六三三	元和 8	10・18	成田泰之没。嫡子が無く、成田家断絶。	大河内金兵衛、吉田善兵衛に屋敷を小鹿野で与えた事を逸見四郎左衛門に伝える。	『大河内金兵衛書状写』『吉田家文書』鉢1―91
一六三三	元和 8	10・18	榊原政景は佐竹義宣（慶長七年五月、佐竹氏は出羽国久保田二十万石に滅封された）に仕えた後、越前結城秀康の所に逗留、禄二千石を給される。	『行田市史』資料編古代中世「断家譜」 『結城秀康絵巻』『福井市史』資料編4 『岩槻市史』古代中世資料編Ⅱ「太田家記」 『藩翰譜』藤田	

## 参考引用文献

- 赤見初夫 一九九四「榛名峠城と権現山城及び雨乞山の要害について―城の変遷とその位置をめぐる―」『群馬文化』一三三九号  
 浅倉直美 一九八三「後北条氏と用土新左衛門尉」『戦国史研究』第六号  
 一九八八「後北条氏の権力構造―鉢形領を中心として―」『中世東国史の研究』東京大学出版会  
 一九九六「第四章三・四」『上里史』通史編 上里町  
 一九九七『後北条領国の地域的展開』岩田書院  
 二〇一〇「解説 乙千代の藤田入婿と鉢形領の成立」『論集戦国大名と国衆2 北条氏邦と武蔵藤田氏』岩田書院  
 二〇一七「北条氏邦の生年について」『戦国史研究』第七四号  
 浅倉直美編 二〇一〇『北条氏邦と猪俣邦憲』論集戦国大名と国衆3  
 新井浩文 一九八八「永禄十二年の越相一和に関する考察」―太田資正の動向を中心として―『駒澤史学』三九・四〇  
 二〇〇〇「梶原政景の政治的立場」―足利義氏との関係を中心に―『駒澤史学』五五  
 二〇〇四「江南町周辺の「領」と領主支配」『江南町史』通史編上巻  
 池 享 二〇一二『東国の動乱と織豊権力』吉川弘文館  
 池享・矢田俊文編 二〇〇三『上杉氏年表』高志書院  
 池上裕子 一九七六「戦国大名領国における所領および家臣団編成の展開」『戦国期の権力と社会』東京大学出版会  
 池上裕子編 二〇〇五『中近世移行期の土豪と村落』岩田書院  
 稲村坦元 一九六六『武蔵史料銘記集』東京堂出版  
 岩槻市 一九八三『岩槻市史』資料編Ⅱ 岩付太田氏関係史料  
 梅沢太久夫 二〇一一『改訂版 武蔵松山城主上田氏』―戦国動乱二五〇年の軌跡― まつやま書房  
 二〇一三『戦国の境目』―秩父谷の城と武將― まつやま書房  
 二〇一五『北条氏邦と鉢形領支配』まつやま書房  
 江田郁夫 二〇〇五「豊臣秀吉が宇都宮で過ごした十一日間」『知らざれる下野の中世』随想社  
 太田市教育委員会編 一九九六『金山城と由良氏』  
 小川町 一九九九『小川町史』資料編2 古代・中世Ⅰ  
 小田原市 一九九六『小田原市史』史料編中世Ⅰ  
 一九九〇『小田原市史』史料編中世Ⅱ  
 一九九二『小田原市史』史料編中世Ⅲ  
 神奈川県 一九七九『神奈川県史』資料編3 古代・中世(3下)  
 上里町 一九九二『上里町史』資料編

## 参照用

- 川越市 一九七五『川越市史』史料編中世Ⅱ  
 騎西町 二〇〇五『騎西町史』資料編中世  
 行田市 二〇一『行田市史』資料編 古代中世  
 工藤定雄ほか 一九七七『上杉家御年譜』1～3 米沢温故会  
 栗野俊之 一九八八『天徳寺宝笈考』―戦国後期の関東と織田・豊臣政権―『駒澤史学』三九・四〇  
 黒田基樹 一九九四『用土新左衛門尉と藤田信吉』『戦国史研究』二八号  
 一九九五『戦国大名北条氏の領国支配』岩田書院  
 二〇〇一『戦国期東国の大名と国衆』岩田書院  
 二〇〇四『扇谷上杉氏と太田道灌』岩田書院  
 二〇〇五『戦国北条一族』新人物往来社  
 二〇〇七『北条早雲とその一族』新人物往来社  
 二〇〇九『図説太田道灌』江戸東京を切り開いた悲劇の名将 戎光出版  
 二〇一〇『総論 戦国期藤田氏の系譜と動向』『論集戦国大名と国衆2 北条氏邦と武蔵藤田氏』岩田書院  
 二〇一一『戦国関東の覇権戦争』洋泉社  
 黒田基樹編 二〇一二『武蔵成田氏』戦国大名と国衆7 岩田書院  
 二〇一三『北条氏年表』高志書院  
 黒田基樹他編 二〇一一『戦国遺文』房総編第二卷 東京堂出版  
 黒田基樹・浅倉直美編 二〇一〇『北条氏と武蔵藤田氏』岩田書院  
 群馬県 一九八六『群馬県史』資料編7 中世3 編年史料  
 一九八九『群馬県史』通史編3 中世  
 国史大事典編集委員会 一九七八～一九九三『国史大事典』第一巻～第十四巻 吉川弘文館  
 国立公文書館蔵 『家忠日記』『参州日記』『新編武蔵風土記稿』『武州文書』などデジタルアーカイブ史料  
 児玉町 一九九二『児玉町史』中世資料編  
 埼玉県 一九八〇a『新編埼玉県史』資料編6 中世2 古文書一  
 一九八〇b『新編埼玉県史』資料編8 中世4 記録二  
 一九八二『新編埼玉県史』資料編5 中世1 古文書一  
 一九八五『新編埼玉県史』資料編7 中世1 記録一  
 一九八五『新編埼玉県史』資料編17 近世8 領主  
 一九八八『新編埼玉県史』通史編2 中世

- 一九八八『新編埼玉県史』通史編3 近世  
 一九九一『新編埼玉県史』別編4 年表・系図  
 二〇一四『埼玉県史料叢書』12 中世新出重要史料二  
 斎藤慎一 二〇〇五『戦国時代の終焉』中公新書  
 酒井憲二編著 一九九四『甲陽軍鑑大成』第一巻本文編上 汲古書院  
 坂戸市 一九八六『坂戸市史』中世史料編  
 佐藤博信 一九八八『第三章第一節二享徳の大乱と武蔵』『新編埼玉県史』通史編二 中世 埼玉県  
 二〇〇六『戦国遺文』古河公方編 東京堂出版  
 佐脇栄智 一九七六『後北条氏の基礎研究』吉川弘文館  
 狭山市 一九八二『狭山市史』中世資料編  
 下山治久 一九九五『戦国遺文』補遺編 東京堂出版  
 二〇一〇『戦国時代年表』後北条氏編 東京堂出版  
 下山治久・黒田基樹 一九九五『戦国遺文』後北条氏編第六巻 東京堂出版  
 柴辻俊六・黒田基樹編 二〇〇二〜二〇〇六『戦国遺文』武田氏編1〜6 東京堂出版  
 上越市史編さん委員会編 二〇〇二『上越市史』別編1 上杉氏文書集一  
 二〇〇四『上越市史』別編2 上杉氏文書集二  
 続群書類従完成会 一九八二『続群書類従』第六輯下  
 杉本智彦二〇〇九『カシミール3D』実業之日本社のほか、『フリーソフトインターネット版』  
 杉山博・下山治久編 二〇〇八〜二〇〇九『戦国遺文』後北条氏編1〜5 東京堂出版  
 竹井英文 二〇〇七『戦国前期東国の戦争と城郭―「杉山城問題」によせて―』『千葉史学』第五一号  
 武井尚 二〇〇四『北条氏邦の文書―乙千代発給文書を中心に―』『鉢形城開城―北条氏邦とその時代―』寄居町教育委員会  
 武田氏研究会編 二〇一〇『武田氏年表 信虎・信玄・勝頼』高志書院  
 千代田恵汎 一九八〇a・b『鉢形北条氏の権力構造(上)・(下)』『埼玉地方史』第8号・第9号  
 二〇一〇『北条氏邦と猪俣憲邦』戦国大名と国衆3に再録 岩田書院  
 筑波町 一九八九『筑波町史』上巻  
 東京大学史料編纂所編 一九三五『大日本古文書』家わけ十二ノ二  
 一九三〇〜一九五三『史料綜覧』巻六〜十二  
 富樫泰時ほか一九八〇『日本城郭体系』2 新人物往来社  
 中世豊島氏研究会編 一九八八『豊嶋・宮城文書』中世豊嶋氏関係史料集(一) 豊島区立郷土資料館

## 参照用

- 富澤一弘・佐藤雄太 二〇一二『加澤記』からみた戦国時代沼田地方の政治情勢』『高崎経済大学論集』第五四卷第二号  
 富田勝治 一九九二『羽生城』―上杉謙信の属城―  
 豊国義孝編 一九二五 加澤平次左衛門遺著『加澤記 全 附羽尾記』上毛郷土史研究会  
 長野県立歴史館 『信濃史料データベース』  
 名古屋市立博物館編 二〇一七『豊臣秀吉文書集』三 吉川弘文館  
 八王子市 二〇一六『新八王子市史』資料編2  
 鉢形歴史研究会編 二〇一九『鉢形領内に遺された戦国史料』第一集(本編・別編)  
     二〇二〇『鉢形領内に遺された戦国史料』第二集(本編・別編)  
     二〇二二『鉢形領内に遺された戦国史料』第三集(本編・別編)  
     二〇二二『鉢形領内に遺された戦国史料』第四集(本編・別編)  
 東松山市 一九八二『東松山市史』資料編第2巻  
     一九八五『東松山市の歴史』上  
 平岡 豊 一九八四『猪俣能登守について―沼田城主としての活躍―』『國學院雑誌』八五卷一〇号  
     二〇一〇『北条氏邦と猪俣憲邦』戦国大名と国衆3に再録 岩田書院  
 福井市 一九八八『福井市史』資料編4  
 福島幸八 一九六八『吉田家文書の調査』小鹿野町教育委員会  
 藤岡市 一九九三『藤岡市史』資料編 原始・古代・中世  
 真島玄正 一九七九『戦国武将藤田氏の研究(1)』『埼玉史談』二六卷二号  
     二〇一〇『北条氏邦と猪俣憲邦』戦国大名と国衆3に再録 岩田書院  
 峰岸純夫 二〇〇九『中世の合戦と城郭』高志書院  
 矢田俊文ほか 二〇〇八『上杉氏分限帳』高志書院  
 山田邦明解説 一九九九『覚上公御書集』上・下 臨川書店  
 山梨県 一九九八『山梨県史』資料編4中世1 県内文書  
     二〇〇一『山梨県史』資料編6中世3上 県内記録  
     二〇〇二『山梨県史』資料編6中世3下 県外記録  
     二〇〇五『山梨県史』資料編5中世2上 県外文書  
 寄居町 一九八四『寄居町史』原始・古代・中世資料編  
     一九八六『寄居町史』通史編  
 歴史研究会編 一九八四『新版日本史年表』 吉川弘文館



编者紹介

梅沢 太久夫 (うめざわ たくお)

1945年埼玉県生まれ。

埼玉大学教育学部卒業。

埼玉県立歴史資料館長等を歴任。

元・埼玉県文化財保護協会副会長。

主な著書

『日本城郭大系』第5巻「東京・埼玉」(共著 新人物往来社)

『城郭資料集成 中世北武蔵の城』(岩田書院)

『戦国の城』(共著 古志書院)

『北条氏邦と藤田氏』(共著 岩田書院)

『関東の名城を歩く』南関東編(共著 吉川弘文館)

『武蔵上田氏 論集 戦国大名と国衆⑮』(共著 岩田書院)

『松山城合戦』『北条氏邦と鉢形領支配』

『戦国の境目』『埼玉の城』など(まつやま書房)

歴史調査ハンドブック

## 武蔵戦国歴史年表

2023年2月15日 初版第一刷発行

編著者 梅沢 太久夫

発行者 山本 智紀

印刷 株式会社シナノ

発行所 まつやま書房

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町3-2-5

Tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460

郵便振替 00190-3-70394

URL:<http://www.matsuyama-syobou.com/>

©TAKUO UMEZAWA

ISBN 978-4-89623-194-6 C0021

著者・出版社に無断で、この本の内容を転載・コピー・写真絵画その他これに準ずるものに利用することは著作権法に違反します。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

定価はカバー・表紙に印刷してあります。